

【資料5】

令和4年8月31日

令和4年度施策レビュー（二次レビュー）指摘事項における
各部伝達が必要な事項について

7月30、31日実施の施策レビューにおいて、検証委員及び市民評価者からいただいた指摘事項・改善提案等のうち、部署横断的に共通する主な事項について以下のとおりとりまとめました。

各部・各課におかれましては、指摘事項が該当部・課のみに関わるものと捉えず、自分ごととして自らの施策・事業を振り返り具体的な改善を図ってください。

1 「まちづくり構想 福知山」に掲げる政策・施策目標を実現するために行うのが事業である。その前提にたって各事業がなすべき役割や施策を実現するための課題を明確にする必要がある。

（検証委員、市民評価者が記載した改善提案等）

- 救命について、市民が救命行動に移るためにどうするか課題が明確になっていない（2-1-2 消防・救急体制の充実）
- 心拍再開率が救命率に直結しているのは分かるが、市民救命士登録者の増加が課題設定として正しいのか不明（2-1-2 消防・救急体制の充実）
- 成果指標に向けた分析ができておらず、現在の取組で施策推進による課題解決につながっていない（2-2-1 エネルギーの地産地消の推進）
- あるべき姿目指す姿を明確にしてから課題を整理し取り組みを考えた方が良いのではない（2-3-1 豊かな自然環境の保全と活用）
- 従来事業の延長の取組姿勢では、事業を消化していくことに力点があり、アクティビシティ推進との庁内連動するアクション施策の立案が必要
- 政策に掲げる生きがいくつくりとしての「文化芸術活動」の幅広いジャンルと捉え方と、担当課の認識のズレが大きい。まず基本的認識の適正化が必要
（5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興）
- 課題把握が大雑把である。施策が全ての世代ということをテーマにしているのであれば、世代別のそれぞれの課題が認識されていなければならないと感じる。
（5-2-1 全ての世代に対する健康意識の醸成と動機づけ）
- 何が本質的な課題で、何を乗り越えていこうとしているのかが不明
（5-2-2 高血圧をはじめとする生活習慣病の予防促進）
- 減塩モニターなどの政策が全体のアウトカムや課題設定が不明確なので、やっけるぞ感を出すものになっていてもつたいない。戦略がないのであれば、やっても無駄である。（5-2-2 高血圧をはじめとする生活習慣病の予防促進）

2 課題解決に事業がどのように結びついているのか、どのように貢献するのか判然としないものが見られるので明確にする必要がある。

(検証委員、市民評価者が記載した改善提案等)

【施策と事業の関連について】

○政策目標の実現につながる事業が明確でない

(2-2-2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成)

○課題解決のため取組が明確ではない。例えば若い方を対象とした取組をしたら、政策実現にどう結びつくのかまで考えていく必要があるのではないか

(2-3-1 豊かな自然環境の保全と活用)

○方向性に記載されている内容は適切だと思う。それだけでは不足している部分もある。具体性に欠ける。多くの市民が文化芸術活動に参加する機会を持てる取組が見えない。(5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興)

【構成事業について】

○施策を構成する事業が4つしかなく表現できていない

(2-2-1 エネルギーの地産地消の推進)

○まちづくり構想がスタートしたばかりにつき、政策実現に向けて全事業を施策に結び付けて成果指標実現に向けて実行していった方がいい。

(2-2-1 エネルギーの地産地消の推進)

○目的、手段が混沌になっているので組織としてもう少し深く整理された方がいい。最後は制度や仕組みで答える必要がある。

(2-3-1 豊かな自然環境の保全と活用)

○従来事業の延長の取組み姿勢では、事業を消化していくことに力点があり、アクティビシティ推進との市内の連動するアクション施策立案必要

(5-1-1 する・みる・ささえる・はじめる生涯スポーツの推進)

【成果の把握について】

○政策目標の成果指標である文化芸術活動実施率について、継続的・定期的にアンケートを行うなどの計画がないことはNG。成果指標をきちんと設定し、経年変化を把握しないと施策の有効性を評価できない

(5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興)

3 市民や民間企業等と連携した取組が時代の要請となっているにも関わらず、そうした連携の姿が見えにくい、そういう思いに至っていないものが散見されるので、連携・協働のあり方について具体的に検討し実施する必要がある。

(検証委員、市民評価者が記載した改善提案等)

【市民への働きかけについて】

○市役所の中だけの課題を捉えられているような気がする。市民一人一人に伝わりにくい気がした。(2-2-1 エネルギーの地産地消の推進)

○市の(責務、義務)との業務をするのみでは成果指標の達成には至らないのではないか。資源の消費抑制や、循環型社会の形成につながるにはもっと市民へのアプローチを取り組む必要があるのでは。

(2-2-2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成)

○環境パーク自身リサイクルの努力をされているが、もっと市民にさせる努力を考えて欲しい(2-2-2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成)

○市民の意識改革を促すために、3R活動について中学高校大学生への出前講座を実施して欲しい。(2-2-2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成)

○ごみの減量について施設規模による数値目標は必要だが、市民の意識改革事業も必要(2-2-2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成)

○スポーツ関与率の捉え方は良いが、実施参加数とのギャップをどのように埋めていく手法、手段(アンケート)の適正かどうかの検証必要。インフルエンサーに何を期待し何を成果につなげたいのかを明確化必要

(5-1-1 する・みる・ささえる・はじめる生涯スポーツの推進)

○文化振興にかかる「推進員」は文化協会構成代表者と定義すること自体が、狭義に捉えているので、私の生き方・生きがいがづくり「アート・アクティビター」という位置づけで捉え直しが必要。そのことにより取組み内容を変えていく。

(5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興)

【企業(民間)との連携について】

○民間との連携が施策の実現に極めて重要と考えるが、現状では不明である。

(2-2-1 エネルギーの地産地消の推進)

○市の責務である業務のみを実施していたのでは温室効果ガスの排出削減率に寄与していると判断できなかった。(2-2-2 廃棄物の適正処理と循環型社会の形成)

○小学生、中学生、大学生までの学生に何をやってもらいたいのか、労働層に何をやってもらいたいのか、高齢者には何をやってもらいたいのか、これが見えてこない。市民として知りたいのは上記の部分です。

(2-3-1 豊かな自然環境の保全と活用)

施策レビューの議論の中では、検証委員から上記の指摘事項についてのやりとりで的確に答えられず、議論が噛み合わない場面が見受けられました。その姿勢では、市側の認識や取組の精度が問われることとなりますので、あらためて各部・課共通の課題として捉え、対応していただきますようお願いします。